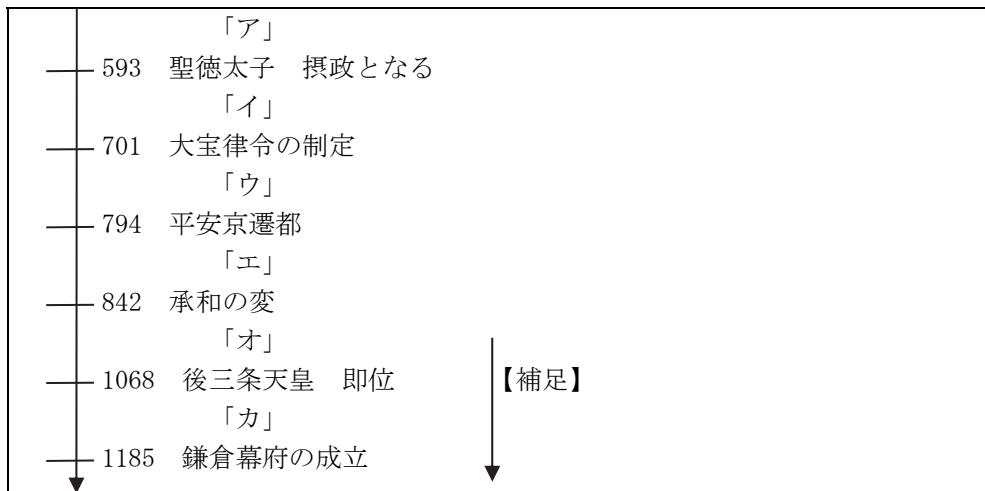

第1章 日本史

1. 古代（有史以前～平安時代まで）

(1) 全体像



(2) 「ア」のうち、有史以前

①縄文時代（今から 1 万 3000 年前～紀元前 4 世紀）

- ➡性的分業が見られる（男；狩猟・石器づくり、女；採集・土器づくり）。
- ➡縄文時代晩期には水稻耕作の跡がみられる。福岡の板付遺跡が有名。
- ➡身分の差や貧富の差はなかったとみられる。
- ➡アニミズム（精霊崇拝）が見られ、呪術的風習があった。
例）屈葬、抜歯、土偶、石棒
- ➡縄文時代の名のとおり、低温焼成した厚手で黒褐色で縄文がある縄文土器が作られている。
- ➡磨製石器を使用している、弓矢、釣り用に骨角器もあった。
- ➡住居は竪穴式。
- ➡遺跡としては、三内丸山（青森）、大森貝塚（東京）が有名。後者は明治時代にモースが発見した。
- ➡黒曜石やサヌカイト、ひすいの分布から広範囲の交易がされていたといえる。

②弥生時代（紀元前 4 世紀～紀元後 3 世紀）

- ➡水稻耕作と弥生土器（高温焼成、赤褐色）、青銅器を祭器利用、鉄器を武器と農具利用したことに特徴づけられる時代。
※北海道と南西諸島は稲作でなく続縄文文化、貝塚文化が続く。また他の地でも狩猟漁労あり。
- ※農具は最初、木製や石包丁に代表される石器だった。後に鉄に変わった。
- ➡余剰生産物の蓄積が貧富の差を生んだと言われ、埋葬物に差が生まれた。
- ➡遺跡としては、吉野ヶ里（佐賀）、唐古・鍵（奈良）、板付、荒神谷（島根、銅剣・銅鐸・銅矛で有名）。
- ➡中国史書や朝鮮半島の碑文に見る弥生時代～大和朝廷初期は下図 1 のとおり。

図 1 外国文書にみる古代日本

漢書地理志 (紀元前 1 世紀)	倭は百余国に分裂。楽浪郡に遣使あり。
後漢書東夷伝 (1～2 世紀)	奴国王となる（「漢委奴国王」の金印）。師升は生口献上。倭国が大乱となった記述あり。
魏志倭人伝 (3 世紀)	邪馬台国連合発足（卑弥呼に「親魏倭王」の称号。卑弥呼は帯方郡に遣使）。
高句麗好太王碑文 (4 世紀)	倭の進出。しかし、高句麗に敗北。
宋書倭国伝 (5 世紀)	倭の五王の遣使（武が「安東大將軍」の称号）。
隋書倭国伝 (7 世紀)	小野妹子が遣隋使として隋へ。

- ➡弥生時代後半から大和朝廷の初期は、古墳の特徴を図 2 からおさえよう。